阿南市新野地区における民間薬調査

民間薬調査班（徳島生薬学会）

川添　和義[1,2*]　伏谷　秀治[2]　廣瀬由記子[2]　田岡　寛之[2]　中川　博之[2]　小中　健[2,3]
濱野　裕章[2]　田中　里奈[2]　谷原　摩耶[2]　井上　海容[2]　泉　侑希[2]　石丸　優子[2]
鈴木　杏奈[2]　田中　浩基[2]　坂東　寛[2]　田浦　梓[2]　八木　ゆい[2]　黒下　統麻[2]
前田　和輝[2]　栗本慎一郎[3]　洲山　佳寛[3]　田泓　夏花[4]　中谷　愛[4]　今林　潔[5]
柏田　良樹[1]　水口　和生[1,2]

要旨：徳島県の各地域に伝承される民間薬の調査研究の一環として，阿南市新野地区における民間薬調査を行った。アンケート形式でサンプル調査を行った結果，982件，150品目の民間薬について回答があった。そのうち利用目的がわかっているものは673件，100品目であった。回答の多かった民間薬としてはドクダミ，ヨモギ，アロエ，センブリなどであり，これまでの調査結果と類似していた。また，イシャイラズと呼ばれる民間薬について調査したところ，回答者の約19%が知っていると答え，ドクダミまたはゲンノショウコであるという回答が半数を上回った。これまで県西部での調査が多かったが，今回，県南の調査においても民間薬の種類などには大きく変化はなく，伝承の変化は他の地域と類似していることが明らかになった。

キーワード：民間薬，伝承薬，イシャイラズ，アンケート調査

1．はじめに

徳島県は古くから薬草の出荷が盛んであったが，近年になりほとんどなくなってしまった。これは，栽培や採集を担っていた人たちが高齢化・過疎化などで減少してしまったというだけではなく，民間薬伝承がなくなり薬草の利用が年々少なくなっていることも一因である。民間薬の利用は地域文化の継承であり，その中から得られる情報は多く，将来に向けた新しい医薬品開発シードとしての有用性は決して見逃すことができない。そこで，徳島生薬学会民間薬調査班では徳島県における民間医療に関する情報継承の状況を把握し，それをできる限り文書化して継承すると同時に，当該地域における医薬品利用の資料とすることを目的として調査を行っている。

今回は阿南市新野（あらたの）地区における民間薬利用実態調査を行った（以下，新野調査）。我々は2006年から県西部を重点的に調査してきたが，今回の調査地は県南部である阿南市であることから，県西部と県南部の民間薬の伝承状況や利用法などの違いにも興味が持たれる。ただ，阿南市の平野部と山間部では民間薬利用実態がかなり違うことが予想される。そこで，これまでの調査地が山間部であったことから今回も阿南市の中でも比較的山間地域である新野地区を選び調査を行うこととした。新野地区は阿南市の南西部に位置し，東は阿南市福井町に，西は那賀（なか）郡那賀町（旧鷲敷（わじき）町）と海部（かいふ）郡美波（みなみ）町（旧日和佐町）に接している。阿南市の統計[1)]によると平成25年現在，新野地区の人口は3,914人（男1,824人，女2,090人），1,431世帯となっていて，阿南市人口（76,974人）のおよそ５％を占めている。

調査は民間薬（薬草）の利用と認識について，戸別に訪問してアンケートにより行った。限られた調査員と調査日数のため，全世帯ではなくランダムに抽出した家を訪ね調査を行った。本稿では，県西部で同様の調査を行った「美馬（みま）市美馬地区の民間薬調

1　徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部　　2　徳島大学病院薬剤部　　3　徳島大学大学院薬科学教育部
4　徳島大学薬学部　　5　徳島大学附属薬用植物園
＊　770-8503　徳島市蔵本町２－50－１　徳島大学病院薬剤部　kawazoe@tokushima-u.ac.jp

表１　性別・年齢別の情報収集件数（件）

	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	計	回答数（戸）	１戸あたりの平均回答数	用途不明	用途不明と回答した比率（%）
男　性	9	5	28	79	52	28	41	242	88	2.8	72	29.8
女　性	10	19	68	96	104	39	38	374	141	2.7	100	26.7
複　数	6	8	26	110	67	44	27	288	43	6.7	120	41.7
不　明	4	0	0	2	14	5	53	78	32	2.4	17	21.8
計	29	32	122	287	237	116	159	982	304			
全回答件数に対する割合（%）	3.0	3.3	12.4	29.2	24.1	11.8	16.2	−				
回答数（戸）	17	27	46	60	61	30	63	304				
利用しないと回答した戸数（内数）（%）	6 (35.3)	16 (59.3)	12 (26.1)	10 (16.7)	4 (6.6)	5 (16.7)	20 (31.7)	73				
１戸あたりの平均回答数	2.6	2.9	3.6	5.7	4.2	4.6	3.7	4.3				
用途不明	11	9	33	111	72	35	38	309				
用途不明と回答した比率（%）	37.9	28.1	27.0	38.7	30.4	30.2	23.9	31.5				

査」（以下，美馬調査）[2]，「つるぎ町一宇（いちう）地区における民間薬調査」（以下，一宇調査）[3] および「吉野川市山川町における民間薬調査」（以下，山川調査）[4] と比較しながら，新野地区における民間薬利用について考察する。

２．調査方法

１）調査期間

調査は基本的に2013年８月10日から３日間行ない，さらに必要な情報収集についてはそれ以降も行った。

２）調査形態・内容および同定

伝承医薬品の調査，同定については2007年に行った美馬市木屋平地区の民間薬調査[5]（以下，木屋平調査）に準じた。

３．調査結果および考察

１）調査対象

調査対象は男性が回答したのが88戸（28.9%），女性が回答141戸（46.4%），複数名で回答が43戸（14.1%）不明32戸（10.5%）の合計304戸であった。これは当地区の全世帯数の21.2%に相当する。世帯の年齢別の構成は[6]，不明分（63戸）を除き40歳未満が7.1%，40歳代が11.2%，50歳代が19.1%，60歳代が24.9%，70歳代が25.3%，80歳以上12.4%となっていて，60歳，70歳代で半数を占めていることがわかる。以前の調査と比較すると，美馬，一宇，山川各調査では70歳代の回答者が最も多かったが，今回は60歳代と70歳代はほぼ同程度の回答数であった。回答者の年齢構成と，年齢別の回答数（戸）お

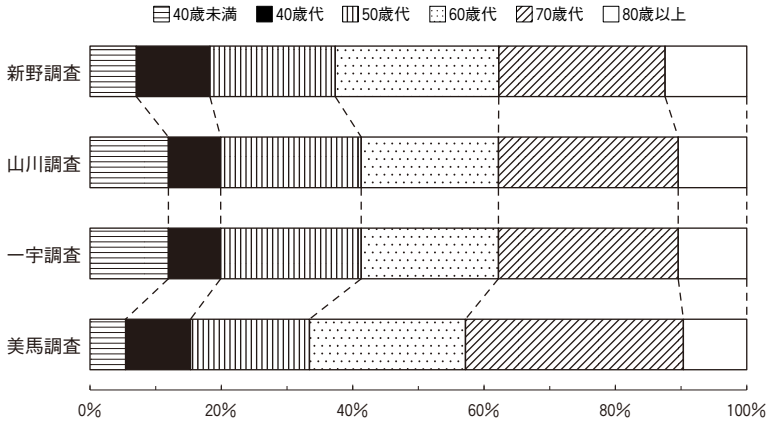

図１　回答者年齢構成比（不明分を除く）

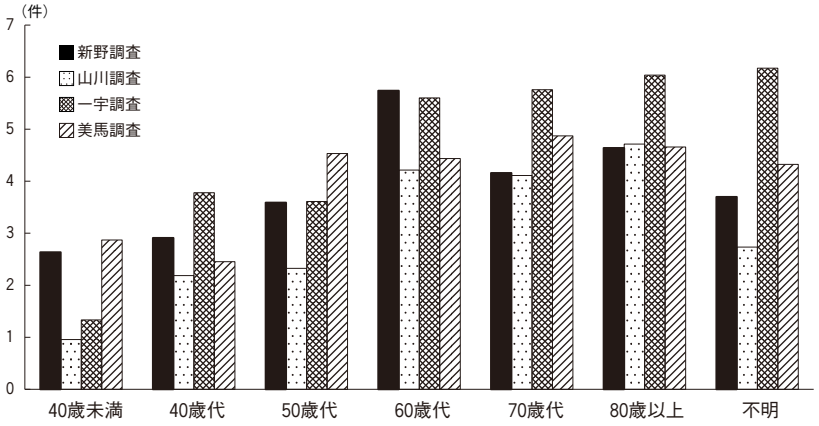

図２　一戸あたりの情報数

よび情報収集件数はそれぞれ**図１**と**表１**に示すとおりである。

２）情報の概要

調査では必ずしも民間薬の情報があるとは限らず，民間薬は知らないという回答もある。今回の調査では73戸（24.0%）で回答が得られず，この地域において約１／４は民間薬情報が既になくなっていると見ることもできる。これは回答者の年齢によってもかなり異なっていて，特に40歳代では多く，６割近くで情報が得られなかった。一方，60歳代以上では比較的回答が得られており，50歳代あたりで情報の断絶が生じていると考えられる。60歳を境として２群に分けて考えると50歳代までは37.7%，60歳代以上では12.6%が民間薬を知らないと回答していた。

得られた情報は全部で982件であり，これらを種類別に見ると，植物由来891件，動物由来48件，菌類５件，加工品・その他6件，不明32件であった。１戸あたりの平均回答数（何種類の民間薬情報があったか）は，60歳代までは順次上昇しており60歳代が最も多く，70，80歳代でやや少なかった。これは，これまでの調査と同様の傾向にあるが，60歳代が突出して多いのが特徴的である。また，40歳未満でも比較的多くの情報が得られているのは美馬調査と類似しており，都市部では若年層が比較的多いことと関連がある可能性がある。（**図２**）。なお，男女

表２　品目別全情報件数と用途不明件数

a. 情報件数が12件以上（件）

	全情報	用途不明	用途不明率(%)		全情報	用途不明	用途不明率(%)
ドクダミ	179	70	39.1	ツワブキ	24	4	16.7
ヨモギ	116	21	18.1	オオバコ	24	11	45.8
アロエ	74	11	14.9	スギナ	21	4	19.0
センブリ	59	15	25.4	ホウセンカ	19	2	10.5
ゲンノショウコ	53	22	41.5	ウラジロガシ	17	2	11.8
ニホンマムシ	36	5	13.9	ビワ	13	3	23.1
ユキノシタ	26	6	23.1	エビスグサ	12	4	33.3

b. 情報件数が３～11件

11～８件　（５品目）　〔*有効回答が２件以下　１品目〕
　ニガウリ，カキノキ，ウコン，セイヨウリンゴ*，カンアオイ
７～４件　（10品目）　〔*有効回答が２件以下　３品目〕
　マグワ，ダイコンソウ，クコ*，アマチャヅル，タラノキ，チドメグサ，シャクヤク*，カンゾウ*，イワタバコ，ヒトツバ
３件　（10品目）　〔*有効回答が２件以下　７品目〕
　ムカデ，マタタビ，ニホンザル*，ニッケイ*，トチュウ*，トウモロコシ，サルノコシカケ*，ゴボウ*，クチナシ*，ウメ*

表 3　調査地別有効情報数

新野調査	情報件数	累計(%)	山川調査	情報件数	累計(%)	一宇調査	情報件数	累計(%)	美馬調査	情報件数	累計(%)
ドクダミ	109	16.2	ドクダミ	103	18.8	アロエ	140	11.1	アロエ	307	19.4
ヨモギ	95	30.3	アロエ	64	30.4	ドクダミ	94	20.4	ドクダミ	230	34.0
アロエ	63	39.7	ヨモギ	48	39.2	ニホンマムシ	60	28.4	ヨモギ	170	44.7
センブリ	44	46.2	センブリ	28	44.3	ヨモギ	46	35.6	センブリ	109	51.6
ニホンマムシ	31	50.8	ニホンマムシ	27	49.2	ゲンノショウコ	36	41.3	ゲンノショウコ	68	55.9
ゲンノショウコ	31	55.4	ユキノシタ	19	52.6	センブリ	36	45.0	ユキノシタ	47	58.9
ユキノシタ	20	58.4	ゲンノショウコ	17	55.7	キハダ	30	47.5	ニホンマムシ	41	61.5
ツワブキ	20	61.4	オオバコ	11	57.7	マタタビ	27	50.0	オオバコ	36	63.8
ホウセンカ	17	63.9	ビワ	10	59.6	オオバコ	26	52.2	ビワ	35	66.0
スギナ	17	66.4	ホウセンカ	10	61.4	ユキノシタ	17	54.4	カキノキ	20	67.2
総数	673		総数	549		総数	786		総数	1,581	

での回答率に有意差は見られなかった（カイ二乗検定による）。

調査で得られた情報のうち，利用法として何らかの回答が返ってきた（以後「有効な」と表記）情報は673件（68.5%）であった。これまでの調査での有効な情報は，山川調査で549件（78.3%），一宇調査で786件（77.9%），美馬調査で1,581件（74.9%）あったことから，今回の調査では利用法の回答がない割合がこれまでの調査と比べ大きいと言える。

民間薬は全体で150品目確認されたが，そのうち１つでも利用に関する情報が得られたものは100品目（66.7%）あった。さらに有効な回答として３回以上出現したものは28品目で全確認数の28.0%であった（**表 2**）。この割合はこれまでの調査と比較しても平均的と言える（一宇調査30.3%，美馬調査30.0%，山川調査25.0%）。

有効な情報数の多いものから並べて情報数が全体の50%を超過するまでの品目数は５種類であった（**表 3**）。これは一宇調査よりは少ないが，山川調査や美馬調査とよく似ており，民間薬の種類もほぼ同じであった。上位10種類の民間薬を比較してみると，今回，この地域で特徴的であったものの一つがツワブキであり，他の地域で見ると美馬調査では23位，山川調査では49位に見られ，一宇調査では見られなかった。これは，ツワブキが海岸近くに多く自生していて[7]，一宇のような山間部ではあまり見られないためと考えられる。一方，今回の調査地は阿南市でも山間部でありツワブキの自生はあまり多くないと考えられるが，一宇ほど海は遠くなく，人の移動とともに情報が移動したとものと考えられる。また，情報のみが伝わった可能性もある。今回の調査においてツワブキの利用法や目的はほぼ類似しており，生の葉を焼いて（もしくは揉んで）そのまま患部に貼り，炎症・打撲の痛みや腫れ，化膿を抑えるというものである。この利用法は日本各地でも知られており，葉に含まれるヘキセナールとよばれる抗菌作用のあるアルデヒドがその薬理作用に関与していると考えられている[8]。特徴のある民間薬としてホウセンカもあげられる。ホウセンカは山川や一宇調査でも比較的上位に出現しているが，新野調査では特に多く見ることができた。利用は多くが白花のものであり，花を焼酎に漬けてその液を虫刺され，火傷などに塗布（とふ）するというものである。この利用法は他の地域（県西部）でも多く見られることから，徳島県では一般的な利用法であると考えられる。しかし，全国的に見るとこのような利用法はあまり知られておらず，比較的狭い地域で広まっている利用法であるとも考えられる。

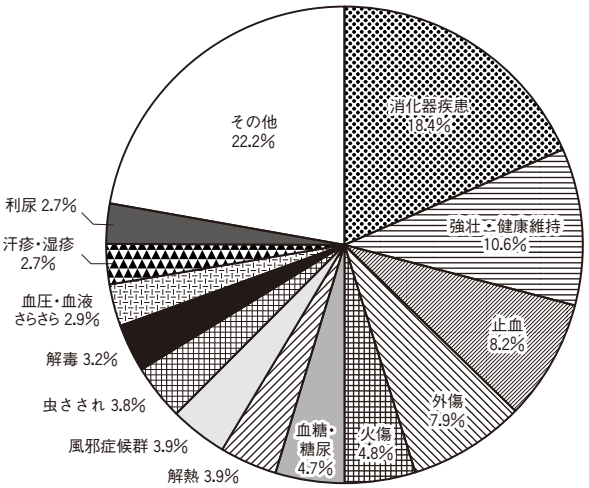

図 3　疾患別利用の割合

3）利用目的・方法について

民間薬の利用目的を**図3**に示した（割合はのべ件数から算出）。他地域の調査と同様，最も多いのが健胃整腸，下痢止めなどを目標とした「消化器疾患」（142件，23品目）で，利用される民間薬としては上位からセンブリ（41件），ドクダミ，ゲンノショウコ（ともに24件），アロエ（17件），イワタバコ（5件），エビスグサ（4件）であった。この中ではイワタバコが特徴的であり，過去の調査ではあまり出てこなかった（山川調査1件，一宇調査2件，美馬調査0件）。なお，イワタバコを健胃薬として利用する地方は多い[9]。次いで多かったのが「強壮・健康維持」（82件，26品目）で，ドクダミ（28件），ニホンマムシ（15件），カキノキ（4件），ニガウリ，アマチャヅル（ともに3件）であった。多くは「健康茶として飲む」という回答であった。3番目に多かったのが「止血」（63件，8品目）で，このうち54件はヨモギであった。利用法は生葉を揉んで患部に貼るというものであり，この利用法はこれまでの調査でも多く見られた。「止血」に利用されるものとして次いで多かったのがチドメグサ（2件）であったが，この植物はこれまでの調査では山川調査で1件見られたのみであった。止血以外の効能も含めるとチドメグサは5件あり，うち1件は「外傷」と回答していることから止血の意味合いもあると考えられる。チドメグサは文字通り古くから止血作用があるとして利用されてきた植物である。ただ，徳島県の他の地域ではあまり見られないことから最近になって広がった薬草とも考えられるが，「ツトメグサ」などの方言も見られることから古くからこの地域にあった可能性も否定できない。

利用目的としてこれ以降は「外傷」（61件，13品目），「火傷（やけど）（37件，7品目）」と続いた。「火傷」ではアロエが29件あり，火傷に使われるのはほぼアロエであると考えられる。一方，外傷にはヨモギ，アロエ，ニホンマムシなどがあがっていて，アロエは外傷にもよく利用されていることがわかる。美馬調査では，利用の違い（外用か内服）で異なる種類のアロエを用いていたが，今回の調査ではそのようなことは見られなかった。

今回の調査でも動物を起源とする民間薬が見られたが，最も多かったのはニホンマムシで，動物由来の民間薬48件のうち36件を占めた。利用法としては酒に漬けて滋養強壮や虫刺されの薬として，また，皮を化膿した患部に直接貼り付けるというものであった。このような利用法は他の地域にも共通したものであるが，これら以外にも，今回の調査では痺（しび）れを除く，がんに効くなどの利用法も見られた。次に多かったものはムカデとニホンザルで，ムカデは油漬けにしてその油をムカデに咬（か）まれたときの治療薬とする，ニホンザルは脳の黒焼きを産後の頭痛薬として，肉をリウマチの薬として利用していた。これら以外の動物起源として特徴的であったのはクサギの軸に寄生するコウモリガの幼虫を火で炙（あぶ）って食べさせて子どもの疳（かん）の虫に利用する，肺炎にコイの生き血を飲むというものがあった。

他に今回の調査で特徴的な民家薬として確認されたものとしてセイヨウリンゴとカンアオイをあげることができる。セイヨウリンゴはこれまでの調査でもいくつか見られたが，今回は特に多く，特に50歳代以下からの回答が多かったことから，メディアや書籍から入ってきた知識であると推測される。効能としてもよくわからないという回答が多く，漠然と健康によいから薬草だと考えられている可能性が高い。一方，カンアオイは8件の情報があり，この地方では比較的広く利用されていることが推測される。ほとんどが解熱薬・風邪薬としての利用であった。この仲間であるウスバサイシンの根は「細辛（サイシン）」として風邪などの治療を目標とした漢方薬に処方される。また，カンアオイも「土（ド）細辛」とよばれ，民間で広く鎮痛・去痰などに利用されていることからカンアオイ自体珍しい民間薬ではない[10]。しかし，これまでの調査では，少なくとも県西部の東祖谷（いや），三加茂，山川，一宇，美馬，阿波では全く確認がなく，わずかに木屋平で1件見られたのみであった（利用法は同じく解熱で，この回答者は30年前に他の地域から移住してきたと言っていた）。このことから，徳島県ではカンアオイは県西部より県南部で広く用いられている可能性がある。なお，本来，ウスバサイシンの利用部位は根であるが，カンアオイは根に限らず全草などを利用していることがわかった。また，一般的に鎮咳薬としての利用は知られて

表 4　年齢別に見た「イシャイラズ」などと呼ばれる薬材（件）

	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	計
ドクダミ	1	1（1）	8（3）	11（8）	5（3）	2（1）	5	33（16）
ゲンノショウコ	0	0	2（2）	6（4）	12（3）	9（4）	4（2）	33（15）
アロエ	0	0	0	6（1）	5（1）	0	1	12（2）
セイヨウリンゴ	2（2）	1（1）	1	0	0	0	3（2）	7（5）
センブリ	0	0	0	1	2（1）	1（1）	0	4
その他	1（1）	0	1	4（2）	1（1）	1（1）	1（1）	9（6）
不明	0	0	0	0	1（1）	1	2	4（1）
計	4（3）	2（2）	12（5）	28（15）	26（10）	14（7）	16（5）	102（45）
有効回答数	1	0	7	13	16	7	11	57
全体の戸数に対する比率（%）	5.9	0.0	15.2	21.7	26.2	23.3	17.5	18.8
全体の有効回答数に対する比率（%）	5.6	0.0	7.9	7.4	9.7	8.6	9.1	8.5

括弧内は不明または無回答の情報数（内数）

いるが，解熱を目標とした利用法は珍しいと思われる。ただし，ウマノスズクサ科であるこの植物には重篤な腎障害を引き起こすアリストロキア酸が含まれている可能性があり，多量に長期利用すると腎炎などを引き起こす可能性がある。そのため，利用については十分に注意喚起する必要がある。

今回の調査で確認された薬材について，地方名，利用部位，利用目的，利用方法を**表 5** にまとめた。なお，**表 5** において情報数の極端に少ない民間薬または使用目的についてはアスタリスク（＊）を付した。また，使用部位は主なものを記載した。

4）「イシャイラズ」調査

地域によって呼び方は異なるが，よく効く民間薬を「イシャイラズ」や「イシャダオシ」と呼ぶことがある。今回の調査地域においてもそのように呼ばれる民間薬があるかを調べた。**表 4** に，年代・品目別に「イシャイラズ」と呼ぶと答えた数と，そのうち用途について「知らない」と回答，もしくは無回答の数（括弧内，内数）を出現頻度の多い品目順に列記した。全回答数の約 1 割である102件の回答があったが，そのうち44%（45件）は用途不明（無回答も含む）であった。したがって，有効な回答は57件で全体の戸数に対して18.8%，全有効回答数の8.5%であった。これまでの調査でも全回答数の 1 割程度が「イシャイラズ」と呼ばれていることが多かったが，今回の調査ではその利用法などを知らないと回答した比率が比較的高かった。これは，何となく体にいいと考えていたり，自らが利用したことがなく聞いたことがあるだけというケースが多いものと考えられる。

品目としてはドクダミとゲンノショウコが同数（33件）で最も多く，次いでアロエ（12件）であった。セイヨウリンゴ（ 7 件）という回答も比較的多くあったが，用途を明らかにしたのは 2 件だけであり，むしろ，センブリ（ 4 件）の方が有効回答の数としては多かった。ただし，ドクダミとゲンノショウコはその情報数がそれぞれ179件，53件と大きく異なっており，ゲンノショウコは半数以上が「イシャイラズ」と呼ばれていることがわかる。年齢別に見るとセイヨウリンゴは若年層に，センブリは高齢者層に多く認識されていることがわかる。これは，セイヨウリンゴが古くからの伝承ではない可能性を示唆するものであり，また，センブリは若年層にあまり伝承されていないこともわかる。一方，ドクダミ，ゲンノショウコは50歳代以上に多く比較的広く認知されているものと思われる。「イシャイラズ」などを知っていると回答した戸数の全体の戸数に対する割合を見ると70歳代で最も多く（26.2%）50歳代より下の年代にはあまりないことがわかる。これは「イシャイラズ」という言葉自体が伝承されていない可能性も考えられる。

5）薬材の名称

調査では回答された薬剤名をそのまま記録しているが，方言で回答のあることも多い。しかし，比較的新しくメディアなどを通して入ってきた民間薬には本来の方言はない。例えば「ゴーヤ」はニガウリ

のことであるが，これは琉球方言であることから，この民間薬は古くからの伝承ではないことがわかる。今回も多くの民間薬が方言で伝えられていたが，多かったのは「ジュウヤク」（ドクダミ），「ハミ」「ハメ」（ニホンマムシ），「シラカシ」「シラガシ」（ウラジロガシ），「ドクケシ」「ドッケシ」（エビスグサ），「ヤマジュウ」「ヤマジュウヤク」「サイシン」（カンアオイ）であった。これ以外にも「ツトメグサ」（チドメグサ），「イワジシャ」「イワジソ」（イワタバコ），「サンキライ」（サルトリイバラ），「カズラ」（オオツヅラフジ），「コッカナシ」（サルナシ），「イタズリ」（イタドリ）などが見られた。

4．総括

今回は県南部における調査であり，2006年からの県西部における調査と比較することで地域による民間薬利用の違いや類似性が明らかになった。まず，多用される民間薬は県西部のものと大きく異なることはなく，特徴はあまりないことがわかった。このことは，民間薬の「一般化」，すなわち，かつては使用されていたであろうさまざまな民間薬がいくつかの代表的なものに絞られて伝わってきていることを示唆している。また，民間薬の名称はわかっていてもその用途が不明である率はこれまでの調査以上に高く，情報の多くが欠落していることも明らかになった。ただ，その中でもツワブキやカンアオイなど他の地域ではあまり見られないような民間薬も利用されていることが明らかになった。これは，一部では確実に民間薬伝承が残っているということであるが，多くは高齢者からの回答であり，次世代へと継承されている保証はない。また，今回の調査では若年層からも多くのの民間薬に関する回答が得られたが，その中にはセイヨウリンゴやゴーヤと言った最近のメディア，書籍などから入ってきたと思われる民間薬が多くあることがわかった。一方では，高齢者層にはゲンノショウコやセンブリをイシャイラズと呼ぶ習慣が残っていて，時代による民間薬の変遷を垣間見ることができる。

5．おわりに

今回の調査は県南部の調査ではあるが，阿南市新野地区というごく限られた範囲であったため，この結果を以て県南部の調査を代表することはできない。しかし，少なくとも民間薬伝承文化が途絶えつつあるのが県西部だけではないことは今回の調査から明らかとなった。徳島県全体として人口減少に歯止めがかかっていない状態であり，阿南市も例外ではない。さらに，県内外からの人口移動も比較的多い地域であるため，今後，伝承は更に減少する可能性が大きい。徳島県に残る「遺産」とも言える医薬文化を残していくためにも，他の地域についてもできるだけ早期に伝承の状況を明らかにする必要がある。

文献

1）阿南市統計書（平成25年版），阿南市企画部企画政策課

2）徳島生薬学会（2008）：美馬市美馬地区の民間薬調査，阿波学会紀要，55，79－89.

3）徳島生薬学会（2010）：つるぎ町一宇の民間薬調査，阿波学会紀要，57，89－98.

4）徳島生薬学会（2011）：吉野川市山川町における医薬品利用調査，阿波学会紀要，58，85－94.

5）徳島生薬学会（2007）：美馬市木屋平地区の民間薬調査，阿波学会紀要，54，101－111.

6）複数で回答があった場合は主たる回答者の年齢とした。

7）牧野新日本植物図鑑（1974），北隆館，pp.668.

8）明解　家庭の民間薬・漢方薬（1992），水野端夫，米田該典編，新日本法規，pp.386.

9）日本薬草全書（1995），水野端夫，田中俊弘編，新日本法規，pp.64－65

10）日本薬草全書（1995），水野端夫，田中俊弘編，新日本法規，pp.176－177

The folk medicine of Aratano area in Anan City, Tokushima Prefecture

KAWAZOE Kazuyoshi*, FUSHITANI Shuji, HIROSE Yukiko, TAOKA Hiroyuki, NAKAGAWA Hiroyuki, KONAKA Ken, HAMANO Hiroaki, TANAKA Rina, TANIHARA Maya, INOUE Uminari, IZUMI Yuki, ISHIMARU Yuko, SUZUKI Anna, TANAKA Hiroki, BANDO Hiroshi, TAURA Azusa, YAGI Yui, KUROSHITA Toma, MAEDA Kazuki, KURIMOTO Shin-ichiro, SUYAMA Yoshihiro, TABUKI Natsuka, NAKATANI Ai, IMABAYASHI Kiyoshi, KASHIWADA Yoshiki, MINAKUCHI Kazuo.

* Division of Pharmacy, Tokushima University Hospital, 2-50-1 Kuramotocho, Tokushima 770-8503, JAPAN

Proceedings of Awagakkai, No. 60（2015），pp.79－88.

表 5

植物	
アザミ*	〔根・根茎〕 腰痛
アマチャヅル	〔全草〕 健康・強壮 茶料
アマドコロ*	滋養強壮
アマハステビア*	糖尿病
アメリカホド*	〔花〕 滋養強壮
アロエ	〔葉〕 虫刺され，外傷，火傷，胃薬 患部に貼り付ける，汁を飲む
イタドリ* イタズリ	〔根・根茎〕 解熱 そのまま利用する
イチョウ* ギンナン	〔葉・果実〕 （果実）咳止め*，（葉）利尿* （果実）煎る
イワタバコ イワジシャ イワジソ	〔葉〕 胃腸薬，胃がん 粥，茶に入れる，茹でる
ウコン	〔根茎〕 利胆，健胃，血栓予防 干して粉にする
ウド*	〔根〕 解熱
ウメ* アオウメ	胃薬，赤痢* 煮詰めて飲む
ウラジロガシ シラカシ	胆石，利尿，胃・腎疾患，肝・心疾患* 茶料
ウンシュウミカン*	〔樹皮〕 風邪
エビスグサ	胃腸薬，便秘*，糖尿病*
オオバコ オバコ	〔全草，葉〕 風邪，咳，外傷，胃腸薬，痒み止め* 煎じる，貼り付ける，そのまま食べる
オトギリソウ*	風邪
カキノキ	〔葉〕 血圧，健康増進，殺菌* 煎じる，煎って粉にする
カリン*	咳，ノドの痛み 酒漬
カワラケツメイ* カワラケツメイシ	脚気，胃炎，便秘，黄疸
カワラヨモギ*	利胆，駆虫
カンアオイ サイシン，サイシンソウ，ヤマジュウ，ヤマジュウヤク	〔全草，根〕 風邪，解熱，高血圧* 煎じる，生のまま
カンゾウ*	風邪 煎じる
キクイモ*	糖尿
キササゲ* キササギ	〔果実〕 腎疾患，利尿，肝臓病* 煎じる
キュウリ*	火傷，ハゼノキかぶれ
キリンソウ*	〔葉〕 ムカデ，ハチ刺され，痒み止め 生を揉んで使う
キンカン*	風邪，ノドの痛み 酒漬け
キンモクセイ*	〔葉〕 痒み止め 生利用
クコ*	〔果実〕 強壮
クチナシ*	〔果実〕 咳止め
ゲッケイジュ*	〔葉〕 リウマチ，神経痛
ゲンノショウコ ミコシグサ	〔全草，葉〕 胃腸薬，下痢，解熱，湿疹，化膿，利尿* 煎じる，茶料
ゴボウ*	高血圧，ストレス 茶料
ササ*	〔葉〕 利尿 干して煎じる
サルトリイバラ* サンキライ	〔葉〕 解毒 茶料
シソ*	血液さらさら
シマツナソ* モロヘイヤ	蕁麻疹，胃腸薬
シャクヤク*	〔根〕 止痛 煎じる

＊　極端に情報数の少ない民間薬または利用目的

表５（続き１）

ショウガ*	血流改善 煎じる
シロミナンテン*	眼病
スギナ ツギナ	〔葉〕 糖尿病，利尿，胆石*，高血圧* 煎じる，茶料，配合（ダイコンソウ）
セイヨウリンゴ*	〔果実〕 滋養強壮
センダン* センダ	〔樹皮〕 虫下し
センニチコウ* センニチソウ	止痛 生のまま揉んで貼る
センブリ	〔全草〕 腹痛，胃腸障害，食欲減退，利尿* 振り出す，煎じる，茶料
ダイコンソウ	〔全草，葉〕 腎疾患，解熱，風邪，糖尿病 煎じる，スギナと混ぜて（糖尿病）
ダイダイ*	風邪の初期
タバコ*	〔茎，葉〕 止血
タマネギ*	高血圧
タラノキ タラ	〔樹皮〕 糖尿病，利尿* 煎じる
タンポポ*	〔根〕 健胃 煎じる
チドメグサ ツトメグサ	〔葉〕 止血 生の葉を揉んで汁を出して貼り付ける
ツヅラフジ* カズラ	〔茎，葉〕 痔
ツバキ*	〔葉〕 止血 生利用
ツユクサ*	〔葉〕 虫（ムカデなど）刺され 生利用
ツワブキ ツワ，ツバノハ	〔葉〕 止痛，熱冷まし，打ち身，解毒 炙って患部に貼る，生場を患部に貼る，塩で揉む
トウモロコシ	〔毛（雌蘂）〕 糖尿，利尿，高血圧*，腹痛* 毛を干して茶料，煎じる
ドクダミ ジュウヤク	〔全草〕 利尿，高血圧，止痛，腹痛，胃腸障害，風邪，蓄膿症，湿疹，解毒，外傷，化膿，婦人薬 煎じる，茶料，フキの葉に包んで加熱（外用），塩もみ（外用），浴用（止痛・湿疹）
トチバニンジン*	滋養強壮
トチュウ*	〔葉〕 高脂血症 茶料
ナス* ナスビ	止瀉，ハゼノキのかぶれ ヘタを乾燥し炭にして飲む（止瀉）
ナタマメ	滋養 茶料
ニガウリ ゴーヤ	〔果実，茎〕 糖尿病，肝疾患，健康増進 ジュースにして，茶料
ニラ*	〔葉〕 止血，胃腸障害 生葉を揉んで（止血），粥に入れて食べる（胃腸障害）
ニンニク*	健康増進 酒漬け
ノイチゴ*	〔葉〕 しもやけ 汁を手に塗布
ノビル*	〔鱗茎〕 糖尿病 生利用
ノブドウ*	高血糖 酒漬け
ハトムギ*	健康増進 煎じる
ハブソウ* ケツメイシ	〔種子〕 解毒 煎じる
ヒガンバナ*	〔鱗茎〕 捻挫 小麦と酢で湿布を作り患部に貼る
ヒキオコシ* エンメイソウ	ハエ取り 酢に入れて利用
ヒゼンマユミ*	がん
ヒトツバ	解熱，吹き出物* 生のまま煎じる，唾液と揉んで患部に貼る（吹き出物）
ビワ	〔葉〕 止痛，アレルギー*，利尿*，光線過敏* 茶料，患部に貼る

表 5（続き 2）

フキ*	〔葉〕 虫刺され，火傷 炊いて食べる
フジバカマ*	糖尿病
ヘチマ*	〔果実〕 乾燥肌（アトピー）
ホウセンカ シロホウセンカ	〔花〕 虫刺され，外傷，火傷，アレルギー，アトピー，汗疹 白花を酒に漬ける
マグワ クワ	〔葉〕 糖尿病，高血圧，健康増進* 煎じる
マタタビ	〔果実〕 疲労回復，覚醒*，婦人病* 酒漬け
マツ* マツバ	〔葉〕 歯痛，高血圧 患部に詰める（止痛）
ムラサキバレンギク* エキナセア	免疫増強
モモ*	〔葉〕 汗疹 入浴剤
ヤツデ*	〔葉〕 虫除け 酒漬け
ヤブカラシ*	利尿，解毒，打ち身
ヤマモモ	〔果実〕 健胃 酒漬け
ユキノシタ	〔全草，葉〕 中耳炎，耳痛，解熱，耳だれ，しもやけ，風邪* 生葉を揉んで患部に貼る（しもやけなど），絞った液を使う（解熱） 葉の液を垂らす（中耳炎）
ヨモギ ユグミ	〔葉，全草〕 止血，外傷，湿疹，冷え，虫除け 生のまま揉んで患部に貼る，浴用（冷え），燃やす（虫除け）
ワレモコウ*	胃腸障害 煎じる
動物	
イノシシ*	〔胆嚢〕 胃薬，二日酔い* 食べる
コイ*	〔血〕 肺炎 そのまま飲む
コウモリガ* クサギナノムシ	〔幼虫〕 小児の疳の虫 クサギの軸にいる虫を炙って食べる
ニホンザル* サル	血の道，産後の頭痛，リウマチ 脳の黒焼（血の道），かけらを飲む（リウマチ）
ニホンマムシ ハミ，ハメ，マムシ	〔全体〕 皮膚病，腫れ，火傷，虫刺され，止痛，痺れ，傷薬，滋養強壮 皮を貼る（外用），酒漬け（内服），乾燥して粉にする（内服）
ムカデ	〔全体〕 虫（ムカデ）刺され 生きたまま油漬けにする
菌類	
ウメタケ*	がん
加工品	
ウメエキス*	腹痛*
砂糖*	こぶ
砂糖水*	火傷
番茶*	ムカデ殺し